



# 冬季オリンピック・パラリンピック 競技団体連絡会議



令和4年7月14日

－議題(1)－

機運醸成

## 第139回 IOC総会の動向 [現地時間：5/20（金）]

- 2030大会の開催地決定が来年5月の次期IOC総会で行われる見通し
- 「狙いを定めた対話」の開始が本年12月のIOC理事会までに決定される見通し  
(※ 5月20日IOC総会及びIOC記者会見による)



## ピレネー・バルセロナ 【スペイン】



- ✓ 冬季大会開催実績なし
- ✓ 2030大会招致を断念 (6/20 発表)

## バンクーバー 【カナダ】



- ✓ 2010年冬季大会開催都市
- ✓ 2030年開催に関心
- ✓ 大会概要を公表、公式ホームページ開設 (6/15発表)

## ソルトレークシティ 【アメリカ】

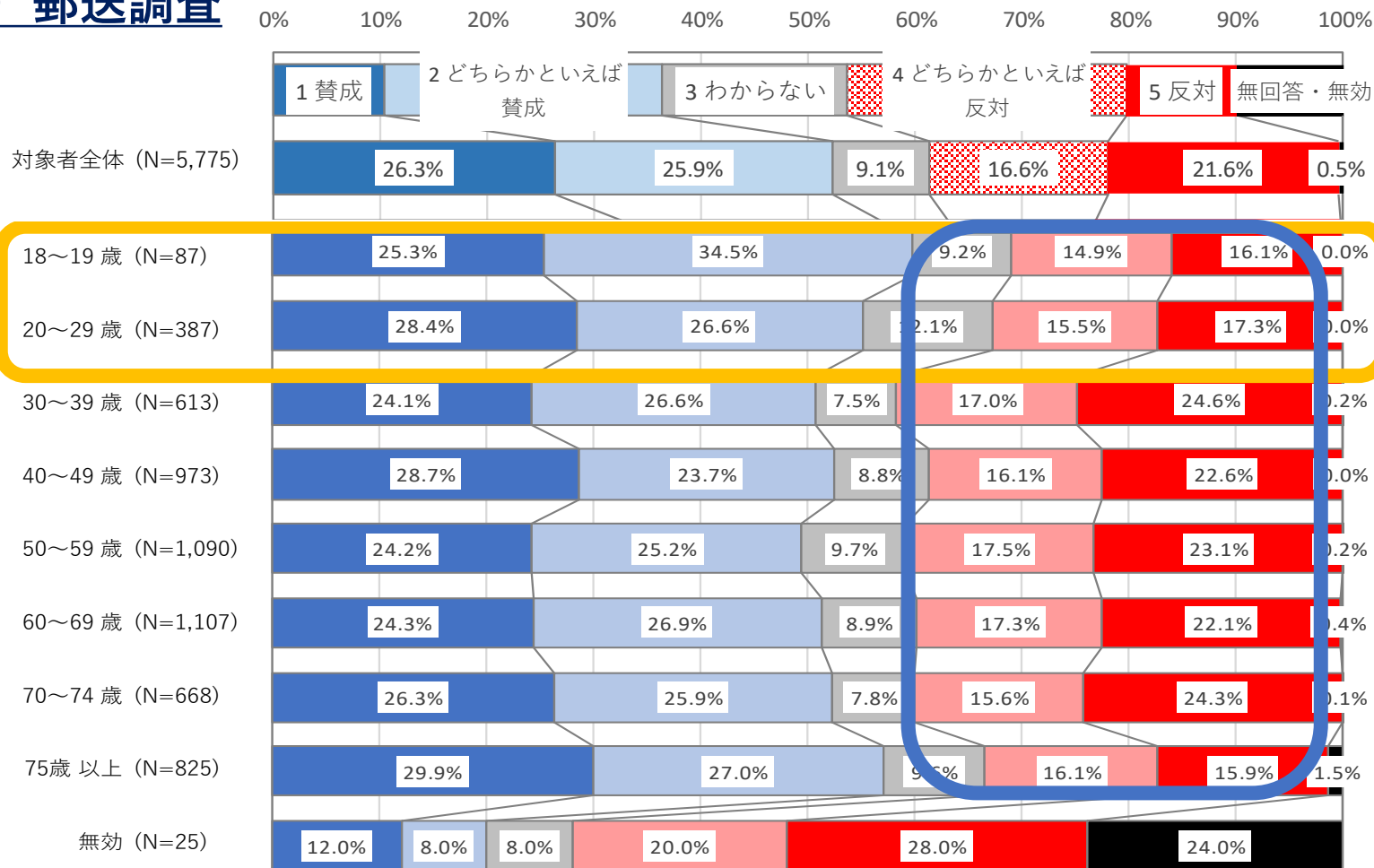


- ✓ 2002年冬季大会開催都市
- ✓ 地元招致委員会がIOC本部を訪問 (6/15報道)
- ✓ 2034年も視野に検討中 (6/23報道)

	郵送調査		インターネット調査		街頭調査	
調査期間	3月2日（水） ～11日（金）		3月7日（月） ～14日（月）		3月2日（水） ～13日（日）	
回答者数 （全体）	札幌市民 5,775人		札幌市民・北海道民 5,540人		映画館に来場した 札幌市民含む北海道民 2,549人	
賛成	26.3%	52.2%	25.9%	56.5%	40.4%	65.5%
どちらかといえ ば賛成	25.9%		30.6%		25.1%	
わからない	9.1%		17.3%		8.2%	
どちらかといえ ば反対	16.6%	38.2%	12.8%	26.2%	12.3%	26.2%
反対	21.6%		13.4%		13.9%	

**3つの手法全てにおいて賛成が過半数を超える**

## 例) 郵送調査



他の年代と比べて、若年層からの高い支持

年代を問わず、一定程度反対の声が存在

➤ 市民との対話を継続し、不安や懸念を払拭するための取組を推進

## ■ プロモーション委員会の目的・ねらい

大会の開催意義や価値を伝え、多くの理解と共感を得ながら、  
大会の開催が日本全体に利益をもたらすよう、オールジャパンで招致を推進

### ◆ 組織形態

- ・ 札幌市とJOCが立ち上げるオールジャパンによる会議体組織

### ◆ 主な活動内容

- ・ 定期的な会合を通じて、札幌市・JOCの理解促進や機運醸成活動に対し、さまざまな立場からご意見やご協力をいただく。

## ■ 顧問・役員

役職	氏名	所属等
最高顧問	麻生 太郎	スポーツ議員連盟 会長
特別顧問	遠藤 利明	スポーツ議員連盟 会長代行
	橋本 聖子	北海道オール・オリンピックズ 代表 スポーツ議員連盟 副会長 2030年オリンピック・パラリンピック冬季競技大会 招致議員連盟 会長
顧問	室伏 広治	スポーツ庁 長官
会長	岩田 圭剛	北海道商工会議所連合会 会頭 札幌商工会議所 会頭 冬季オリンピック・パラリンピック札幌招致期成会 会長
会長代行	秋元 克広	札幌市長
	山下 泰裕	公益財団法人 日本オリンピック委員会 会長
副会長	鈴木 直道	北海道知事
	森 和之	公益財団法人 日本パラスポーツ協会 会長 日本パラリンピック委員会 会長



## ■ 委員

氏名	所属等
秋辺 日出男	アイヌ文化演出家
芦立 訓	日本スポーツ振興センター理事長
荒井 ゆたか	スポーツ議員連盟
伊藤 雅俊	日本スポーツ協会 会長
井本 直歩子	SDGs in Sports 代表
太田 渉子	パラリンピアン (スキー・ノルディック)
太田 雄貴	国際オリンピック委員会 委員
岡崎 朋美	オリンピック (スピードスケート)
荻原 健司	長野市長
片山 健也	ニセコ町長
狩野 亮	パラリンピアン (スキー・アルペン)
河合 純一	日本パラリンピック委員会 委員長
木村 麻子	日本商工会議所 青年部
菅谷 とも子	ANAあきんど株式会社 代表取締役社長

氏名	所属等
高橋 はるみ	スポーツ議員連盟
竹中 仁美	全国商工会連合会 理事
伊達 美和子	経済同友会副代表幹事
永瀬 充	パラリンピアン (アイスホッケー)
原田 雅彦	オリンピック (スキー・ジャンプ) JOC理事
日比野 暢子	桐蔭横浜大学 教授
牧野 准子	有限会社 環工房 代表取締役
マセソン 美季	国際パラリンピック委員会 理事
三屋 裕子	JOC副会長
文字 一志	倶知安町長
本橋 麻里	オリンピック (カーリング)
米沢 則寿	帯広市長
渡邊 守成	IOC委員

▶ 冬季オリンピック・パラリンピック競技団体連絡会議も特別会員として参画

## ■ 会議テーマ（案）

時 期		テーマ案と議論のポイント
第1回	5月10日	・ 設立総会
第2回	6月10日	【共生社会】パラリンピックと共生社会の実現に向けて 共生社会が意味する具体的なイメージとは
第3回	7月26日	【レガシー】東京2020大会レガシーの継承 ボランティアに支えられる大会
第4回	9月上旬	【SDGs】スポーツ大会と気候変動問題への貢献 スポーツと子どもや若者への教育
		【経済・まちづくり】雪など地域の魅力と観光立国への貢献 スポーツと地域づくり・国づくり
		・ 中間取りまとめ（案）の提示・議論
第5回	10月中旬	・ 中間取りまとめ ・ 大会概要（案）更新への反映について

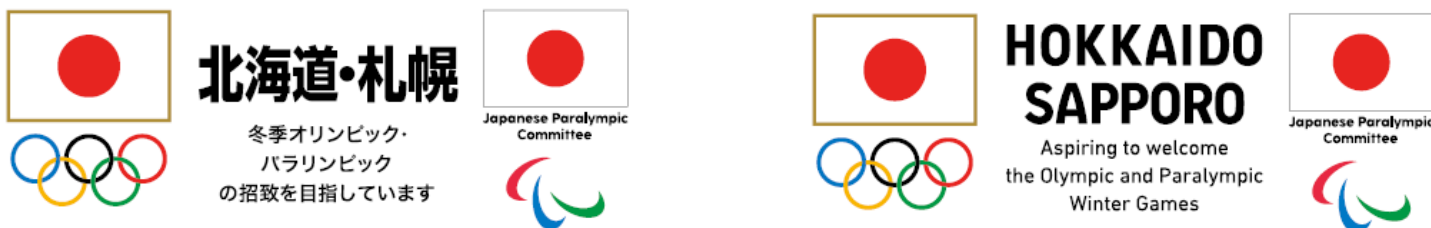
## －協力依頼事項－

# 招致応援プログラムについて

## 招致マーク

### ■ 招致ロゴ

招致ロゴは、JOC エンブレム、JPC エンブレム、大会招致地名（北海道・札幌）と、“冬季オリンピック・パラリンピックの招致を目指しています”という文言で構成

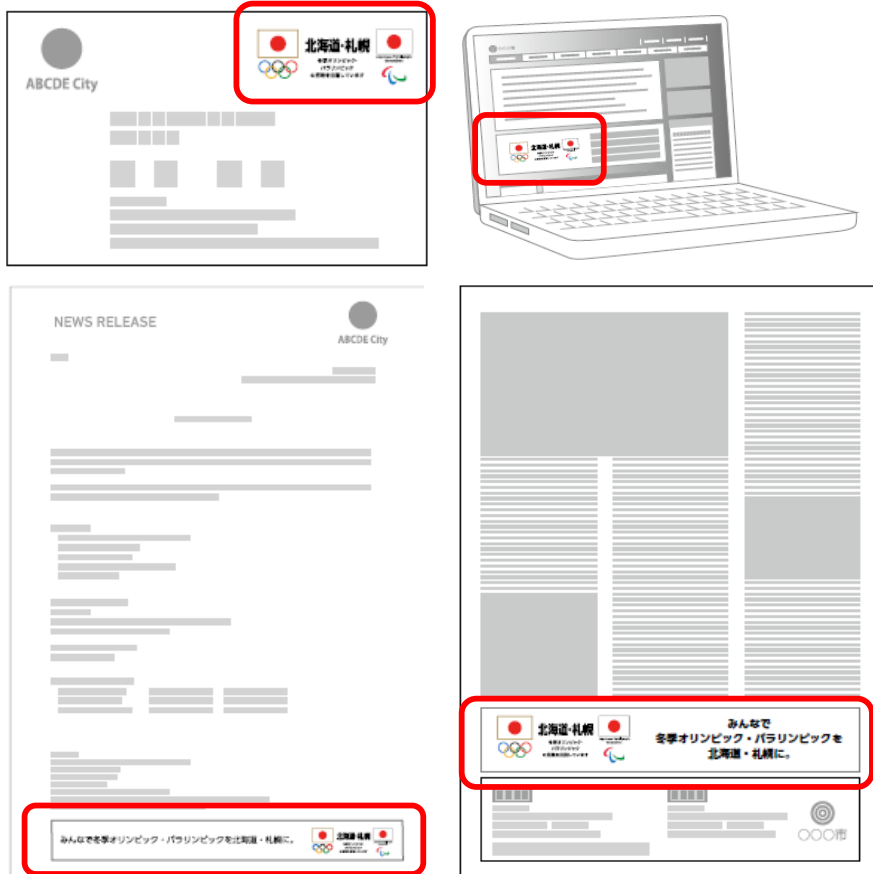


### ■ 招致呼称

1. 北海道・札幌2030 オリンピック・パラリンピック招致応援(プログラム)
2. 北海道・札幌2030大会招致応援(プログラム)
3. オリンピック・パラリンピック招致応援(プログラム)
4. みんなで冬季オリンピック・パラリンピックを北海道・札幌に。

## プロモーション展開例

### ■ 名刺・HP・ニュースリリース等



### ■ チラシ・ポスター等



## 協力依頼事項①

- 連盟の名刺やHP、ニュースリリース、連盟主催の大会チラシ・ポスター、選手募集要項などに、招致ロゴ・招致呼称を併記

## 広報PRツール

### ■ データ

1. 招致PRキービジュアルのデータ
2. 招致PR動画のデータ
3. 大会概要（案）ダイジェスト版のデータ

### ■ 製作物

4. 招致PRポスター（2種）
5. 招致PRステッカー
6. 招致PR三角ポップ
7. 招致PRピンバッジ
8. 横断幕（レンタル）
9. のぼり（レンタル）

## 招致PRキービジュアル リニューアル版（北京2022大会 ver.）



## 協力依頼事項②

- **連盟事務室や連盟主催大会の受付に三角ポップを置く、連盟主催大会の会場内にポスターやのぼりを掲示する など**

## 広報PRツールの使用例

### ■ イベント等で積極的に情報発信



2022.5.29 イオンdeパラスポ(イオンモール札幌発寒)



2022.6.29 ママナビフェスタ(国際館パミール)

■ ご留意いただきたいこと

## ■ 機運醸成活動の対象範囲

以下の要件を全て満たす必要があります。

- 大会招致の理解や機運醸成に繋がる活動であること。
- 非営利的な活動であること。
- 日本国内で実施され、日本国内に向けた活動であること。  
※国際的なプロモーション活動の禁止（継続的な対話）

**IOC、JOC 又はJPC のスポンサーではない企業が、オリンピック・パラリンピックを  
活用して自社の宣伝や商品の販売を行うことはできません。**



## 大会招致に関する情報発信の拠点として、JOCと共同でWEBサイトを開設 プロモーション委員会の活動も含め、広く情報を発信

### コンテンツ

招致に関する最新情報やプロモーション委員会の活動内容を掲載

- イベントレポート、アスリートインタビュー、PR動画・ニュースレターの配信 など
- SNSとの連動により、若年層へのアプローチを含め、幅広い層へ情報を拡散

### 協力依頼事項③

- 連盟のホームページにリンクを掲載  
<https://winter-hokkaido-sapporo.jp/>
- 連盟のSNSで、投稿のシェアやリツイートなど  
twitterアカウント「@hokkaido2030」

### サイトイメージ



## 市民が主体となった招致推進の取り組み

### 冬季オリンピック・パラリンピック札幌招致期成会

- ・札幌商工会議所を中心として2015年設立
- ・構成団体は北海道、札幌市、ニセコ町、倶知安町、経済・観光団体、その他一般企業等合計313団体（R4.3.31時点）
- ・経済界を中心とする民間団体等が一丸となって気運を盛り上げ、国内外へ札幌招致をアピールする組織
- ・今年度の総会は7月27日開催予定



### 機運醸成プロジェクトチーム

- ・招致期成会を中心に立ち上げ
- ・各団体に対する招致応援プログラム活用の提案やメディアへの情報提供を行う
- ・市スポーツ局招致推進部と密接に連携し、官民を挙げた取り組みを創出



## 市民、関係者が一丸となり、まち全体で大会を歓迎

招致を応援する関係者の取り組み：

- ・パラアスリートを応援する札幌市民の会  
→6/30(木)にキックオフイベントを開催。多くの市民を集め、パラノルディックスキー 荒井秀樹監督を講師として招き、パラスポーツについて学ぶ会を実施
- ・北海道経済連合会
- ・札幌市業界団体連絡協議会  
→スポーツ局職員が招致活動の現況と招致応援プログラムの積極的な活用を呼び掛け。団体そのものが機運醸成の主体となることをサポート

今年12月とされるIOCとの「狙いを定めた対話」へのステップアップに向け、2030北海道・札幌オリンピック・パラリンピック招致の機運醸成として

- ・各団体における広報物（チラシ、ポスター、会報誌等）への招致応援プログラムの積極的な活用
- ・イベントにおける招致応援プログラム活用およびブース出展の機会提供
- ・招致応援メッセージの表明と発信

等をはじめとする、連携へのご協力をお願いいたします。

7月～9月  
集中取り組み期間

現在

IOCとの  
継続的な対話

10月ごろ

- ・プロモ委  
中間取りまとめ
- ・大会概要(案)  
更新版公表

IOC内部でも候補地が絞り込まれる見込み。  
この時期までの機運醸成が重要

12月

狙いを定めた対話への移行

## サマージャンプ大会

### ■ 日程

8月6日(土) 第23回札幌市長杯大倉山サマージャンプ大会

8月7日(日) チャレンジカップ2022大倉山サマージャンプ大会

### ■ 目標

①来場者の倍増 (2018実績800人⇒1,600人/大会)

- ▶ 小中学生や障がいのある方へのチラシ配布といった周知強化
- ▶ 夏休み期間中の児童を200名招待
- ▶ 家族単位で障がいのある子どもを招待 など

②来場者を対象とした2030招致機運醸成PR

- ▶ 子ども向けのスポーツ体験コーナーを設置
- ▶ オリンピアントークショー など



— 議題(2) —

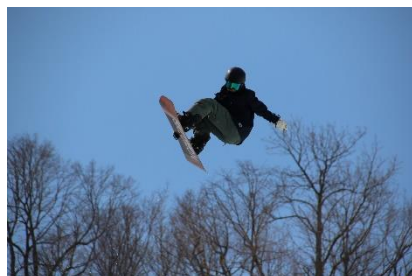
# 選手育成

北海道  
札幌市



地元選手の活躍が、北海道・札幌に賑わいをもたせるとともに、  
オリンピック・パラリンピック成功の一つの要因

- ・ さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業
- ・ シットスキーの貸し出し
- ・ シットスキー、バイスキー指導者養成講習会



**競技団体と行政が連携し、2030大会やそれ以降も活躍する選手を  
北海道・札幌から輩出することを目指し、ジュニア選手の発掘・育成に取り組む**

— 議題(3) —

# スポーツ医科学コンソーシアムの検討

札幌医科大学 片寄正樹教授

札幌市



## 2016年

- 競技団体連絡会議の下部組織である『アスリート部会』が「冬季版総合ナショナルトレーニングセンター構想（案）を作成
- 北海道・札幌市が要望活動実施（2016年～）

## 2019年

- 市長選挙における現市長の公約に「冬季版HPC誘致」が掲げられる
- 札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン2019に「冬季版HPSC誘致」記載

## 2021年～

### ■ スポーツ医科学コンソーシアム検討

市内のNTC競技別強化拠点(大倉山・宮の森ジャンプ競技場)で医科学サポートをしている札幌医科大学・北翔大学・北星学園大学に、北海道大学医学部を加えた検討委員会を設置

**HPSC誘致に向けて、それを支える下地づくり(競技団体・大学連携、人材育成など)が目標**

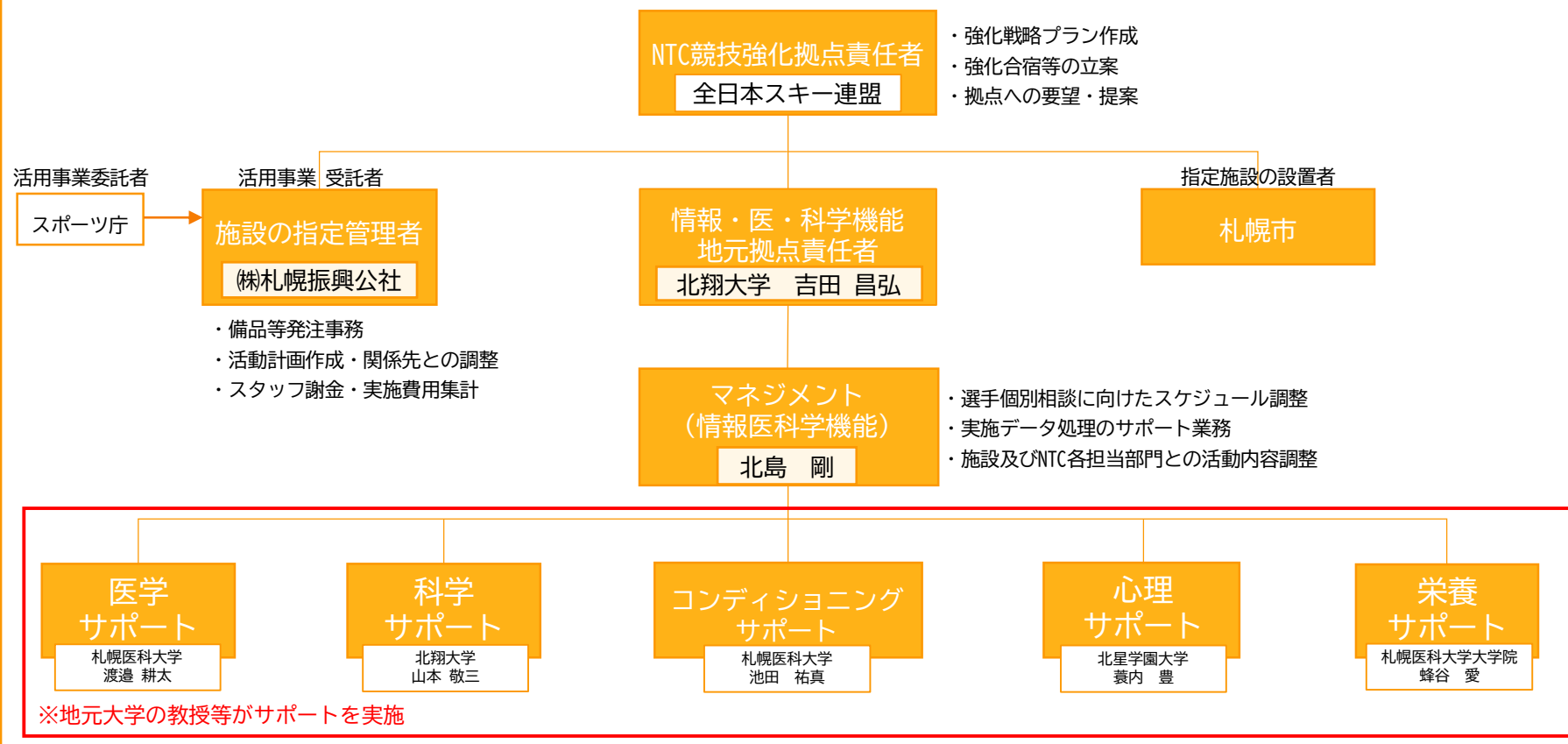
**2022年は、札幌市にNTC競技別強化拠点がある全日本スキー連盟(ジャンプ)及び日本バイアスロン連盟との連携に取り組む**

## ▶ 札幌市ジャンプ競技場 (地元大学が入ったサポート体制が整っている)

専門スタッフによる検診：体組成計測、重心動揺計測、フィールドテスト、柔軟性計測、ジャンプ高計測、スクワットマックス計測など

風データの計測：風のリアルタイム表示システムの活用、国際競技会における風の計測、海外トップ選手と日本人選手における風と飛距離の関係性比較など

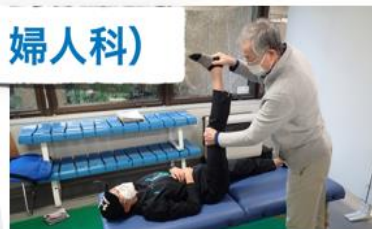
### 活用事業体制図 (引用：令和2年度NTC競技別強化拠点機能強化事業 委託事業実施計画書)



## 強化指定選手の包括サポート

様々な専門家が連携し、情報を共有しながら選手をサポート

医師 (整形・内科・婦人科)



メンタルトレーナー



管理栄養士

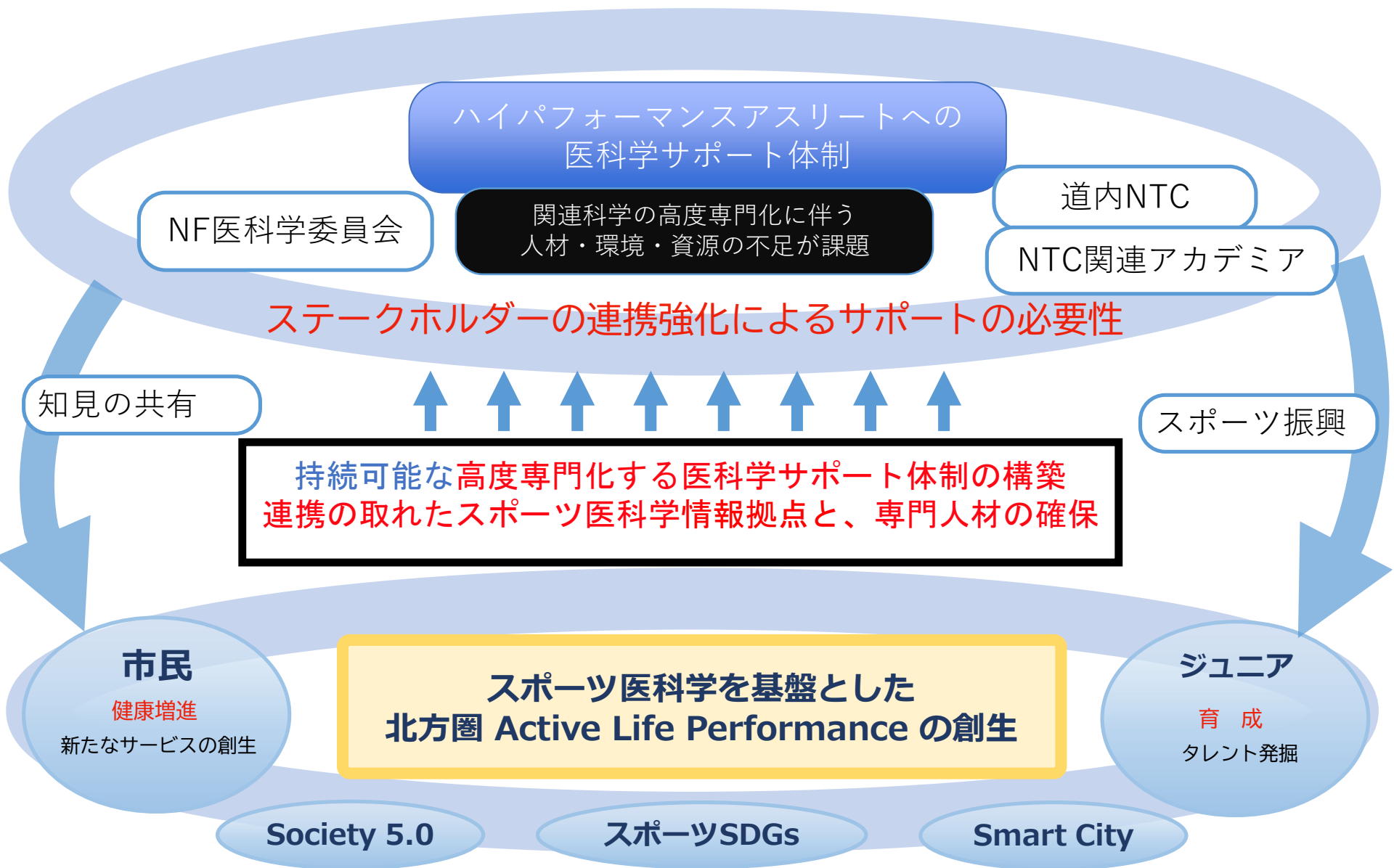


科学分析員



理学療法士・トレーナー







- 2022年度は、札幌市内にNTC競技別強化拠点がある全日本スキー連盟（ジャンプ）及び日本バイアスロン連盟との連携に取り組む。
- 将来的には、道内の他のNTC競技別強化拠点（アイスホッケー：白鳥王子アイスアリーナ、スピードスケート：明治北海道十勝オーバル）や道内の大学とも連携し、この取組みの輪を北海道全体へ広げていく。
- そして、アスリートの医科学サポートから得られる知見を、市民の健康増進やジュニアの発掘・育成に繋げていく。